



訓練の積み重ねが地域の力を作る

11月12日(日)、仏生寺地区の防災訓練が行われました。

防災行政無線による避難指示と同時に始まった訓練では、避難に必要なものを入れたリュックを背負った住民や、福祉防災マップを持参した区長ら約250人が、1次避難場所から乗り合わせて避難所の旧仏生寺小学校に集合しました。

集合後は避難所内の個室 TENT や簡易トイレ等の設営、AED や簡易担架づくりの講習、発電機の作動や炊き出し、要援護者の避難誘導などの訓練を行いました。

これらの地域防災活動といのちのバトンやケアネット活動などの日常的な地域福祉活動が継続して一体的に取り組まれていることが評価され、仏生寺地域づくり協議会は、令和5年度の内閣総理大臣表彰と消防庁長官賞を受賞しました。

訓練を主催した仏生寺地域づくり協議会の役員からは訓練を繰り返し体で覚える、体験したことがある人が増えることの大切さが語られました。



避難リュックを持って避難所へ



消防団員によるAED講習



アルファ米の炊き出し



個室用TENT設営



車いすの使い方も確認



地区防災士による防災講習

♥CONTENTS♥

◆実録! いのちのバトン24時! ...2ページ

◆突撃!? ぼーの調査隊!! 「真輪会」

◆「障害のある人もない人も共に生きるまちづくりフォーラム」を開催しました ...3ページ

◆受講者募集
終活講座で生き方を考えてみませんか?

◆各種お知らせ ...4ページ



消防庁長官賞、内閣総理大臣賞受賞報告



受賞記念コンサートも!

実録! いのちのボタン24時!

市内の各地区社会福祉協議会では、緊急連絡先や医療情報などを記載した情報シートを筒の中に入れ、救急搬送時や災害時、平時からの地域福祉活動に活用する「いのちのボタン(以下、ボタン)」の設置を進めています。

今回は実際にボタンが活用された例を、関わった方々のコメントと共に紹介します。



ケース1 日中一人暮らし状態となる高齢者宅で活用!

家族が仕事や学校で出掛けている日中は一人になる70代のAさん。ある日、自宅で倒れているところを近所の方が発見し救急車を呼びました。駆けつけた救急隊はボタンの情報を確認し、医療機関に適切な情報を伝えることができました。

救急隊員のコメント

要援護者の情報を正確に伝えることができるボタンのお陰で、病院への引き継ぎがスムーズになり適切な処置をすることができました。



ケース2 遠方に住んでいる家族も安心!

一人暮らしで80代のBさん。東京に住んでいる娘さんは、Bさんに何かあった時のことを考えると不安でした。帰省した時、ボタンの存在を知った娘さんは早速Bさんと話し合い、ボタンを設置することに。これを機に地区の民生委員さんとも連絡を取り合うようになりました。

娘さんのコメント

ボタンを設置することで、地域の方が見守ってくれていることを改めて実感できました。今はとても安心していきます。日頃は近くにいませんが、私(家族)にできる事を考えたいと思います。



ケース3 知的障害のある息子と母親の二人暮らし世帯で活用!

60代のCさん世帯。30代の息子は知的障害があります。母親は「緊急時に自分が不在のとき、息子の特性を周囲の方に伝えることができない」と不安を抱えていました。そこで息子のボタンを設置し、障害や関わっている支援者の情報を書き込むことで、何かあった時の発信手段を整えました。

母親のコメント

いざという時に息子の情報を伝えることができるようになり安心することができました。(記入した情報は)災害時にも役立ちそうです。



ボタンの設置や更新を希望される方は、各地区社会福祉協議会または氷見市社会福祉協議会までご連絡下さい。

※個人情報、必要に応じて救急隊や病院、地域の福祉関係者、福祉専門職などと共有され、厳重に管理されます。

※救急搬送時には救急隊の判断でいのちのボタンを活用します。

Information 氷見市ボランティア総合センター

〒935-0011 氷見市中央町12-21(氷見市いきいき元気館内) TEL:74-1800 FAX:74-8055
受付時間 8:30~22:00(年末年始を除く) メール: himi-volunteer@himi-shakyo.jp



突撃!? ぼーの調査隊!!

ぼーの(以下、ぼ):今回はオカリナの演奏をしている『真輪会』の小笹真琴さん(以下、小)にインタビューするよ!



ボランティア
イベントで演奏▶

ぼ:ボランティア団体として活動をはじめたきっかけを教えてください。

小:以前から福祉施設等に訪問し演奏していましたが、一昨年末に氷見市内でたくさんのボランティア団体が活動していることを知りました。「真輪会のオカリナを地域の方々にも聴いて欲しい」「音楽で地域に貢献したい」と思い、昨年の4月からボランティア団体としてメンバー16名で活動をはじめました。

ぼ:活動内容について教えてください。

小:徐々に活動の場が広がり、福祉施設や公民館祭りでの演奏、ロビーコンサートなどを行っています。地域の集いの場やボランティアイベントでも演奏する機会が増え、メンバーもこれまで以上に練習を重ねています。



ぼ:活動で印象に残っていることを教えてください。

小:福祉施設を訪問し「瀬戸の花嫁」を演奏した際に、涙を流しながら聴いている方がいました。私たちの演奏が聴いている方の心に響いているのだと思い嬉しかったです。

ぼ:今後の目標を教えてください。

小:たくさんの方に真輪会のオカリナを聴いて欲しいと思い、朝日山公園や海辺などでの野外演奏の企画を考えています。また、一緒に活動して下さる方も募集しているので、オカリナに興味がある方はぜひ一緒に演奏しましょう。

Information 氷見市ボランティア総合センター
〒935-0011 氷見市中央町12-21 (氷見市いきいき元気館内)
TEL:74-1800 FAX:74-8055 受付時間 8:30~22:00

障害のある人もない人も共に生きるまちづくりフォーラムを開催しました

令和5年12月9日(土)、「障害のある人もない人も共に生きるまちづくりフォーラム」を開催し、地域の方、福祉関係者等、約80人が参加しました。

第1部では、半田市社会福祉協議会の徳山勝氏を講師に招き、「障害者を取り巻く現状とピアサポート※」をテーマにご講演いただきました。

第2部、第3部では、半田市と氷見市のピアサポーターが各々の活動を紹介しました。氷見市でも、ピアサポーターの活動が広がっています。ふくし相談サポートセンターでは、ピアサポーターの活動を支援しています。



フォーラムの様子



半田市の
ピアサポーター
塚本さん

統合失調症という診断を聞いた時は自暴自棄になりました。その後、就職して挫折も経験しました。同じ苦しみや心細さを後に続く人たちにはしてほしくないと思います。ピアサポーターは専門家ではないけれど、同じような課題を持つ人と、お互いの尊厳や境界線を守りながら助け合える存在だと思い、日々皆さんと関わっています。



氷見市の
ピアサポーター
嶋さん

ピア仲間が集うフットサルサークルの活動が仕事のひとつになっています。歩いて行う「ウォーキングサッカー」と出会い、「これなら年齢や障害の有無に関係なく、誰とでも楽しめる」と思い、日本サッカー協会公認のコーディネーター資格を取得しました。今後はピア仲間と地域の方々とはサッカーで交流できる機会をつくりたいです。

参加者の声

「ピアサポート」は初めて聞く言葉だった。他の民生委員にも伝え、活動に活かしたい。
(民生委員)

ピア活動の楽しさやこれまでの思い、それを活かした社会とのつながりの深さを知ることができよかった。
(障害福祉サービス事業所職員)

できないことではなく、「できることに目を向ける」という言葉が印象に残った。
(障害福祉サービス利用者)

※ピア(peer)とは日本語で「同じ立場にある仲間」という意味であり、精神、身体、知的障害領域に限らず、難病や高次脳機能障害、ひきこもり等、同じような悩みを持つ人たち同士で支え合うピアサポート活動は多岐に渡っている。この活動を担う人をピアサポーターという。

受講者募集

好評につき今年も開催！

終活講座で生き方を考えてみませんか？

これからの生き方を考える終活講座を開催します。
相続や終活、実際にはどうしたらいいの？という疑問について学び、考える講座です。自分の人生の遺産をどうやって残せばいいの？親の遺産を相続するには？など、初めの一步として一緒に考えてみませんか？



日 時	テ ー マ ・ 内 容	講 師 ・ 会 場	定 員
2月16日(金) 10:00～11:30	相続のこと、考えてみませんか？ 「死後事務で必要になること ～相続登記義務化と相続不動産国庫帰属制度について～」 ※相続の新しい制度、死後の事務について学びます。	講師：司法書士 谷道 伸也 氏 (司法書士法人 谷道事務所代表) 会場：芸術文化館	40名
2月17日(土) 10:00～11:30	自分らしく、これからを生きる 「エンディングノートを使った生前整理の進め方」 ※エンディングノートを使った生前整理の考え方について学びます。	講師：シニアライフカウンセラー 浮田 美紀子 氏 (株)クラデュース代表 会場：芸術文化館	40名
2月22日(木) 13:30～15:00	福祉専門職向け 本人と家族に向けたエンディング支援 「対象者のエンディングを支える視点(仮)」 ※ケアマネ等の専門職を対象に、エンディングを支える視点、生前整理が必要な利用者やその家族への支援について、ポイントやできることを学びます。(今年度新設)	講師：シニアライフカウンセラー 浮田 美紀子 氏 (株)クラデュース代表 会場：社会福祉会館	40名

申込締め切り：2月2日(金)
(定員になり次第終了)

申込方法 右のQRコードまたは、下記までお電話ください。
※各回のための参加も可能です。



Information 地域福祉研修センター 〒935-0025 氷見市鞍川975番地(氷見市社会福祉会館内)
TEL:74-8407 FAX:74-8409 メール:fukuragi@himi-shakyo.jp

世界にひとつの オリジナルアクセサリーを 一緒に作りませんか？

中高生を対象に「想いをカタチに」のテーマで、オリジナルのイヤリングやペンダントトップなどのアクセサリーづくり体験を行います。



〔講師〕
アクセサリー作家
オトギノイエ mkkmkk. 氏

対象 中学生・高校生
日時 3月10日(日) 13:00～15:00
場所 氷見市児童館
定員 10名
参加費 500円
申込方法 電話または、申込フォーム



申込フォーム

申込締め切り
3月3日(日)

Instagram・facebookも見てね！

Information 氷見市児童館
〒935-0011 氷見市中央町12-21
(氷見市いきいき元気館内)
TEL:74-8063
受付時間 平日8:30～22:00



Instagram



facebook

ありがとうございます

長坂棚田米のご寄付をいただきました

11月16日(木)、氷見伏木信用金庫様から、棚田オーナー田で収穫された長坂棚田米20kgの寄付をいただきました。市社協が実施している学習・生活支援事業「DDスマイル塾」に活用します。

氷見伏木信用金庫
藤井理事長(左)と
市社協 高木会長(右)▶



お詫びと訂正

「ひみのふくし」12月号表紙に掲載した内容に下記のとおり誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

(誤) 健康工房みのり (正) 健食工房みのり